

# DOCUMENT EYE

157

昨年の歩行中の交通事故死者は  
6割以上が高齢者

平日の夕方 東京都内の信号機のある  
横断歩道で 65歳以上とみえる高齢者の  
横断状況を観察した。あわせて薄暮時の  
服装についても調べた。

WHY



親子連れが赤信号で止まっている脇を歩いていく高齢者



真っ暗になると白っぽい服装が目立つことがわかる

## 高齢歩行者の横断歩道の渡り方(111人中)

左右確認	青(75人)		青点滅(4人)		赤(32人)	
	あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性(72人)	13	32	1	3	10	13
女性(39人)	10	20	0	0	4	5
計	23	52	1	3	14	18

65歳以上とみられる高齢者の区分は観察者の見解  
1時間のうちに観察できたものについて記載

観察の結果、横断歩道を利用した65歳以上とみられる高齢歩行者は男性72人・女性39人の計111人だった。別表のように青信号で横断歩道を渡ったのは111人中75人、一方、赤信号で横断した人も32人観察された。

赤信号で横断した人の中には、赤信号で一瞬立ち止まり、クルマがないこと

がわかると横断を始める男性が多かった。親子連れが赤信号で止まっている脇を、スタスタと横断していった男性の中には、親子連れが赤信号で止まっている脇を、スタスタと横断していった男性の高齢者もいた。女性では、誰かが渡る続いて渡るという例を多く見かけた。また、男女ともに左右確認をしない人が目立つた。



白いマスクも意外と目立つ

反射材や視認性の高い服装で  
見られるための工夫を

また、観察で気になったのは、ほとんどの高齢者が単独で行動しており、横断している時もつむぎがちな人が多かったことだ。視野が狭められ、周囲の状況などの情報量が低下しがちなように思われた。

65歳以上の高齢者で歩行中に死亡事故

親子で信号待ちの脇を  
スタスタと横断する高齢者も

## WATCHING

# 111人中32人

信号のある交差点における高齢歩行者の横断歩道の渡り方を観察する

にあつ人は年間1500人を数えている。自宅近辺で事故にあつケースが多いのが事故原因では交差点やその周辺などにおける信号無視・横断違反および安全不確認など数多い。加齢によって視力や運動能力の低下などの身体機能の衰えがあるため、十分な注意が必要である。はもちろん、交通ルールを遵守することも、いつまでもない。

また、ドライバーに自分の存在に気づいてもらつ「見られる」工夫として、明るい色の服装にしたり反射材の使用などで視認性を高めるようにしてほしい。観察されただが、とても目立つていた。

また、ドライバーも高齢者の行動特性を理解して、交差点や横断歩道などで十分な気配り・目配りを心がけてほしい。

## 月刊「ザ・セーフティジャパン」2002年分縮刷版発行!



日頃からSJをご愛読いただきありがとうございます。本紙では交通安全教育にかかる様々な話題を取り上げ、充実した紙面づくりに努めております。この本紙2002年分の縮刷版をご希望の方にお分けいたします。切手2000円分を同封の上、下記までお申し込みください。4月30日まで受け付けております。〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7 第7SJビル6階 (株)アストクリエイティブ「SJ」縮刷版係

ご希望の方  
にお分け  
します